

平成 26 年 7 月 29 日

パシフィックコンサルタンツ株式会社
省エネ型陸上輸送実証事業係

タイヤ溝の計測時期と方法について

1. 計測時期について

データ取得時期にあわせてタイヤの溝の計測について行う事とし、取得時期は以下のとおりとする。検証期間のデータの計測は、燃料を満タンにした状態で計測を開始し、検証の終了時に再度燃料を満タンで計測とする。

■ データ取得時期と部位

データ取得時期			計測箇所（左最前輪・左最後輪）	
			初日	最終日
平成 26 年 度	第 1 回目	エコタイヤ装着前 (実働 20 日間)	○	○
	第 2 回目	エコタイヤ装着後 (実働 20 日間)	○	○
	第 3 回目	1 1 月 1 週間 (実働 7 日間)	○	—
	第 4 回目	平成 27 年 2 月 1 週間 (実働 7 日間)	○	—
平成 27 年 度	第 5 回目	平成 27 年 5 月 1 週間 (実働 7 日間)	○	—
	第 6 回目	平成 27 年 8 月 1 週間 (実働 7 日間)	○	—
	第 7 回目	平成 27 年 11 月 1 週間 (実働 7 日間)	○	—
	第 8 回目	平成 28 年 2 月 1 週間 (実働 7 日間)	○	—

事業期間中にタイヤを履き替える場合（夏タイヤから冬タイヤなど）取り外し前に計測。その後、計測対象になる履き替え後のタイヤも計測とする。

また、磨耗などにより補助対象タイヤの取り外しをされる場合も時期において 1 週間（実働 7 日間）のデータ収集をする。詳細については PCKK へ連絡すること。

基本データ取得時期のデータ取得に関しましては別紙 1 をご参照。

なお、ローテーションをした際は総括票に記入をお願いいたします。

2. 計測方法について

【要領】

- ・タイヤ残り溝深さの計測は、タイヤ円周上の任意2箇所で行うものとする。
- ・各残り溝深さは、1/10mmまで計測を行い、それらの数値を平均した結果求められた数値を当該タイヤの残り溝深さとする。

【手順】

- ・計測箇所：タイヤ円周上の任意2箇所計測する。
- ・計測位置：当該タイヤの溝深さの測定位置とする。
- ・測定器具：1/10mmまで計測可能なデプスゲージを使用する。



写真1

バーの先端が溝の部分にあたるように残り溝ゲージを配置。残り溝ゲージが垂直になるように立て、バーを溝に押し込んで測定する〔写真1をご参照〕

【留意事項】

- ・計測位置の溝底に凸部（スリップサイン又はプラットホーム）がある場合は、それらを避けて計測する。
- ・出来るだけ偏摩耗が起こっていない部分で計測する。
(仮に計測位置に段差摩耗がある場合は、その高低両方を計測し平均値を算定する)
- ・タイヤの転がり抵抗は充てんされる空気圧の依存が非常に高い為、タイヤの空気圧にご注意ください。

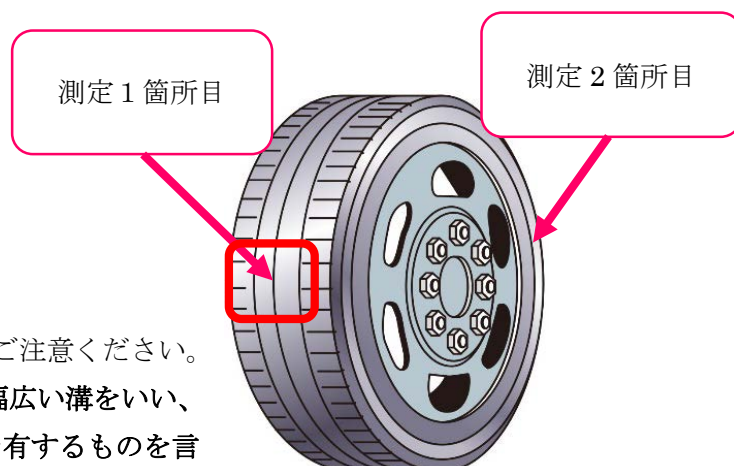
・溝計測箇所に関する補足

- ・任意の測定箇所1箇所を定め、2箇所目は、その対角線方向の任意の1箇所として、合計2箇所を測定する。

- ・**主溝*1**にて測定することとする。

対象となる溝の数は、製品毎に異なるためご注意ください。

***1**：主溝とは、トレッド部にある複数の幅広い溝をいい、その内部にトレッドウェアインジケータを有するものを言う。



2. 溝計測の記録について

- ・測定結果を【タイヤ情報一覧表】に記入する。

【タイヤ情報一覧表】は、後日 PCKK のホームページに掲載されるので、ダウンロードをして記入をお願いします。

エコタイヤ装着後(実働20日間)							
○月○日				○月○日			
初日				最終日			
左最前(mm)		左最後部(mm) 外		左最前(mm)		左最後部(mm) 外	
第1溝	第2溝	第1溝	第2溝	第1溝	第2溝	第1溝	第2溝
○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○
○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○
○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○	○.○

3. 測定器具の例

